

2022
第
42
号

紅

京都大学広報誌
くれないもゆる

萌



京大力、新輝点。



特集

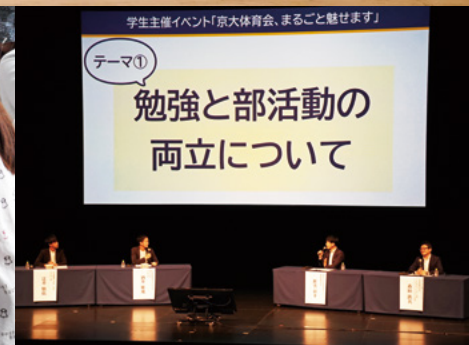
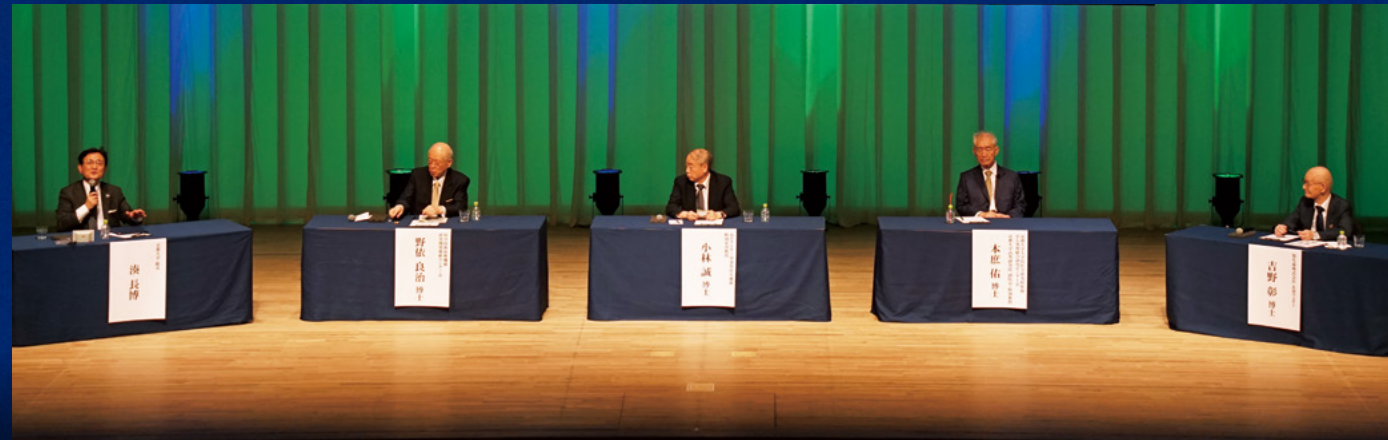
京都大学創立125周年記念行事

KYOTO UNIVERSITY MAGAZINE

京大力、新輝点。

2022年、創立125周年を迎えた京都大学。
その節目を祝い、創立記念日である6月18日と19日の2日にわたり、
京都大学創立125周年記念行事を開催しました。
在校生や卒業生はもとより、招待者や高校生、
地域の方々も集い、125年の歩みを振り返るとともに、
次なる時代を輝かせる「京大力」に触れる2日間となりました。

京都大学創立125周年記念式典



紅萌 第42号 目次

- 02 京都大学創立125周年記念行事
京大力、新輝点。
- 14 授業に潜入! おもしろ学問
法心理学があぶり出す 私たちの「記憶」のあいまいさ
大倉得史
- 18 研究室でねほり・はほり
ウイルスは未知数の宝箱。
尽きない魅力を折り紙で伝える
牧野晶子

- 22 輝け! 京大スピリット
KUBS京都大学放送局/体育会グライダー部
- 24 京都大学基金事務局より/京都大学同窓会だより

表紙の解説●百周年時計台記念館前のクスノキ
百周年時計台記念館の時計塔とともに京都大学のシンボリック的存在として知られ、京都大学のエンブレムにもその姿が描かれるクスノキ。現在、植えられているのは2代目。初代のクスノキが1934年の室戸台風で折れた後植えられた。長年にわたり京都大学の歴史を見守ってきたクスノキの周囲には円形のベンチが設けられ、学生の待ち合わせや歓談場所として賑わう。

2022年6月18日(土)
10:00~12:00 OB・OG講演会
「アスリート魂~勉学とスポーツ、そしてその先へ~」
12:00~18:30 創立125周年記念 アカデミックマルシェ
13:00~14:00 創立125周年 記念式典
14:30~18:15 創立125周年 記念フォーラム

2022年6月19日(日)
10:00~16:00 京都大学アカデミックデイ2022
~創立125周年記念~
体育会学生主催イベント
「京大体育会、まると魅せます」
14:00~16:00 創立125周年 記念音楽会

場所: ロームシアター京都

創立125周年 記念式典
開式
総長式辞 湊 長博 京都大学第27代総長
来賓祝辞 田中英之 文部科学副大臣
澤田 純 京都大学鼎會会長
井村裕夫 京都大学第22代総長
来賓紹介/祝電披露/学歌静聴/閉式



京都大学にゆかりのある多くの方々を迎え、京都大学修生の野村正育氏(NHK放送研修センター アナウンサー)の司会進行により、記念式典を挙行了しました。はじめに湊総長は式辞の中で、列席者の方々、京都大学を支援する全ての方への謝意を伝えた後、新たな四半世紀に向かう京都大学の目標を述べました。次に、来賓の田中英之氏、澤田純氏、井村裕夫氏から祝辞を頂戴し、最後は学歌静聴で厳かに幕を閉じました。



京都大学創立125周年記念フォーラム

真理の探究と地球規模の課題解決

1897年、日本で2校目の帝国大学として創立された京都大学。「自由の学風」を掲げる京都大学はアジアで最多となるノーベル賞やフィールズ賞の受賞者を輩出。発見の源となる独創性や創造力を重んじる気風は、創立125周年を迎えた京都大学に今なお息づいています。

記念フォーラムの幕開けは、京都大学に関わるノーベル賞受賞者11名と、フィールズ賞受賞者2名の軌跡を紹介する映像。上映後、会場に招待されたフィールズ賞受賞者の廣中平祐博士、森重文博士が紹介され、野依良治博士、小林誠博士、山中伸弥博士、本庶佑博士、吉野彰博士が記念講演を行い、利根川進博士がビデオメッセージを届けました。ここでは京都大学に関わるノーベル賞受賞者の系譜とともに、当日の熱気を振り返ります。

物理学 日本人初のノーベル賞 京都大学物理学の脈動

1949年受賞

湯川秀樹 博士
(1907-1981)

1934年に「中間子理論」を発表。常識を覆す大胆な内容で、当初は科学者から相手にされなかったという。欧米の研究者を中心に徐々に注目を集めると、1947年、実験によってついに中間子の存在が証明される。日本人初のノーベル賞を受賞し、日本の科学の力を世界に示して、日本中に夢と希望を与えた。

1965年受賞

朝永振一郎 博士
(1906-1979)

湯川博士とは中高と京都帝国大学の同級生。物理学者を悩ませ続けた、相対性理論と量子論の矛盾を解き明かす「くりこみ理論」でノーベル物理学賞を受賞。理論は今なお有効性を発揮し続け、現実の物理現象を再現するために不可欠である。

2008年受賞

益川敏英 博士 (1940-2021) とともに京都大学理学部助手として研究に従事していた時期に、「小林・益川理論」を発表。それまで3種類しか見つかっていなかったクォークが6種類あることを予言し、宇宙の成り立ちにまで迫る素粒子物理学の根本原理を導いた。

小林 誠 博士 (1944-)

記念講演 素粒子研究の歩み

小林 誠 博士

高エネルギー加速器研究機構 特別荣誉教授

京都大学創立の年に始まり、20世紀に大きな進歩を遂げた素粒子研究の歩みを紹介。湯川博士、朝永博士の功績が素粒子研究に与えた影響のほか、ノーベル賞を同時受賞した益川博士との出会いにも触れながら、自身の発見を振り返りました。講演の最後には素粒子論研究者のアブラハム・パイスの著書から「What is past is prologue(過去は序幕にすぎない)」というシェイクスピアの戯曲の言葉を引用し、科学の発展、そして京都大学のこれからのエールを送りました。



2014年受賞

赤崎 勇 博士
(1929-2021)

1949年に京都大学に入学。同年、湯川博士の受賞の報を聞き、「自分もほかにはできない研究をしたい」と誓ったという。数多くの科学者が断念し、不可能とまで言われた青色発光ダイオード(青色LED)を発明。

化学

福井謙一博士から連綿とつながる 京都大学の化学研究

1981年受賞

福井謙一 博士 (1918-1998)

物理学や数学の基礎理論で化学反応過程を説明するという偉業を達成。1952年に「フロンティア軌道理論」を提唱し、京都大学で教授を務めていた1981年に日本人初のノーベル化学賞を受賞。

2001年受賞

野依良治 博士 (1938-)

キラル触媒による不斉反応の研究で2001年にノーベル化学賞を受賞。右手形、左手形の物質を作り分けることができるバイナップ触媒の開発は、とくに医薬品の分野へのインパクトが絶大だった。重大な副作用を防ぐことが可能になり、医療の安全性が飛躍的に高まった。

記念講演 湯川秀樹先生が残した「一枚の手ぬぐい」 科学者がつなぐ文化と歴史

野依良治 博士

科学技術振興機構 研究開発戦略センター長

湯川秀樹博士のノーベル賞受賞をきっかけに、科学に目覚めた野依博士。湯川博士がコロンビア大学の教授時代に使っていた「手ぬぐい」が李政道博士(1957年ノーベル物理学賞受賞)を経て、野依博士の手に渡ったエピソードを通して、科学者がつなぐ文化と歴史、巡り合いの妙を語りました。京大生時代に福井謙一博士の授業を受け、「見かけではなく、本物の研究を」という研究者のスタンスを学んだ思い出も披露しました。



2019年受賞

吉野 彰 博士 (1948-)

福井謙一博士の孫弟子にあたる。スマートフォン、電気自動車などに使用されるリチウムイオン電池(LIB)を開発し、ノーベル化学賞を受賞。

記念講演 リチウムイオン電池が拓く未来社会

吉野 彰 博士

旭化成株式会社 名誉フェロー

京大生時代に熱中した考古学研究会での思い出から講演は始まり、福井謙一博士の理論からつながるリチウムイオン電池の負極材料の発見までの道のりを振り返りました。ノーベル賞の受賞理由に、モバイルIT社会への貢献だけでなく、持続可能な社会の実現への期待が述べられていることを取り上げ、AIEV(人工知能搭載の電気自動車)が活躍する未来を紹介。子どもたちが環境問題への不安を強く感じていることを危惧し、「解決の道筋は見えていると伝えたい。実現するのはあなたたちだ」と、自身も登場するPRビデオを通して明るい未来像を提唱しました。



1987年受賞

利根川 進 博士 (1939-)

分子生物学の創成期に、100億以上の抗体が生成可能な理由を遺伝子の動きという独創的な発想で突き止め、日本人初のノーベル生理学・医学賞を受賞。他の研究者の追従を許さない成果であり、選考委員会は「100年に一度の偉大な研究」とコメント。

ビデオメッセージ 脳科学と人工知能学の融合

利根川 進 博士 理研MIT神経回路遺伝学研究室理研フェロー

京都大学の学生時代に分子生物学に出会い、アメリカの大学に留学生として飛び込んだ利根川博士。現在は研究分野を脳科学に移し、記憶を保持する「エンGRAM細胞」の発見など、多数の成果をあげています。さらなる発展を遂げる脳科学への期待とともに優れた研究者を輩出する京都大学への期待を述べ、メッセージを締めくくりました。



2012年受賞

山中伸弥 博士 (1962-)

京都大学iPS細胞研究所長・教授を務めていた2012年にiPS細胞の開発でノーベル生理学・医学賞を受賞。一度分化した体の細胞を未分化の状態に戻すことができるiPS細胞技術を使って、治療法が確立されていない難病の原因解明、新しい治療法や薬剤の開発に大いなる可能性を示し、人々に希望と勇気を与えた。

記念講演 iPS細胞進捗と今後の展望

山中伸弥 博士

京都大学iPS細胞研究所名誉所長・教授、公益財団法人京都大学iPS細胞研究財団理事長

現在、いくつかの病気に対して治験・臨床研究が進んでいるiPS細胞の医療応用研究の現在地を、具体的な事例を挙げながら紹介しました。さらに、より安価で迅速なiPS細胞の提供を目指した「再生医療用iPS細胞ストック」の取り組みや、iPS細胞の創薬への貢献など、iPS細胞研究の展望を解説。共に研究や取り組みに邁進する仲間への感謝を述べ、講演を締めくくりました。



2018年受賞

本庶 佑 博士 (1942-)

PD-1の阻害ががん治療に寄与することを発見し、京都大学高等研究院副院長・特別教授を務めていた2018年にノーベル生理学・医学賞を受賞。人が本来持っている免疫によってがん細胞を攻撃する新しいタイプの治療薬の開発につながり、がんの免疫療法を確立。受賞記念の基金「本庶佑有志基金」を設立し、若手研究者への積極的な支援を続けている。

記念講演 獲得免疫の思いがけない幸運

本庶 佑 博士

京都大学大学院医学研究科附属がん免疫総合研究センター長
京都大学高等研究院副院長・特別教授

転機となった早石修先生、西塚泰美先生など、京都大学での恩師との出会いから、PD-1発見、そして抗体の作製に至るまでの道のりを振り返りました。臨床試験や治験のデータを交え、PD-1抗体(ニボルマブ)による免疫療法の効果も紹介しました。本庶博士がノーベル賞を受賞した2018年は、物理学・化学の分野でも生命科学に関するテーマが受賞したことに触れ、エネルギーや情報、食料、環境などのあらゆる問題に関わる生命科学の可能性を強調しました。最後に「生命科学はまだ分からないことも多いから



こそチャレンジの対象だ。足を踏み入れてほしい」と、若者たちを激励しました。



未来を創る若者たちへのメッセージ

ファシリテーター 湊 長博 京都大学総長 バネリスト ノーベル賞受賞者4名

記念フォーラムの最後にはパネルディスカッションが行われました。「ぜひとも若い人たちへのメッセージを」という湊総長の言葉を皮切りに、各者それぞれの視点から若者たちにエールを送りました。ノーベル賞受賞者4名が一堂に会する貴重な機会とあって、会場には高校生や在学生も多く集まり、博士たちの言葉に静かに耳を傾けました。

吉野博士が強調したのは、大学時代に熟中した考古学と、大学・企業での研究との共通点。考古学に没頭した経験が、課題に立ち向かうときの思考に大いに役立つ経験を語り、学生時代になにに夢中になれるものを見つけて没頭する大切さを伝えました。

小林博士は、益川博士と議論を交わした京都大学理学部物理学教室の雰囲気を取りながら、研究のブレイクスルーに必要な心構えを伝えました。目まぐるしく変化する現代において、ゆっくりと自分を育て、他者と異なる考えを持つ勇気を持ってほしいと若

者の背中を押ししました。

本庶博士は、日本の生命科学の現在と将来に目を向けて、率直な意見を述べました。困難の多い現代社会で学ぶ若者たちに寄り添いながら、「自らの考えを貫き通す力を養ってほしい」と、若者たちにメッセージを届けました。

野依博士は、未知や不可能への挑戦に欠かせない、想像力や好奇心を養うヒントを投げかけました。一人ではなく、仲間との共創、コ・クリエイションで新しい知恵をつくる重要性を語りました。

最後に湊総長から、「領域は違えど、受賞者のお話には、どこか共通したところがあると感じたのではないのでしょうか。そこに大事なヒントがあるはず。それは何かを考えて、友だち同士で議論してみたい」と、若者たちにメッセージを送り、ディスカッションを締めくくりました。

創立125周年記念

アカデミックマルシェ

最先端の研究を身近に感じられる展示・体験コーナーや、卒業生が活躍する企業による125周年記念商品の限定販売など、ここでしか味わえない楽しみが盛りだくさん。
未来の京大生も、京大ファンも、老若男女を魅了した一日を振り返ります。



京都大学の卒業生が活躍する企業が集結

京・甘納豆処 斗六屋

この日のために開発された平和酒造とのコラボ商品「完熟梅酒梅甘納豆」。平和酒造の梅酒に漬けられた梅を再利用。



株式会社京都・一乗寺ブリュワリー

限定販売された「京大新輝点クラフト」。京大農場と広島県、高知県とが10年をかけて育てた新品種のブタン「ボナルーナ」と「瑞季」を使った特別品。



果実は大きく、味ははっきりしていて、今回の商品とぴったりでした

京都大学の最先端の研究を体験・実感！

京大の創造力と技術力の結晶！

●工学研究科機械理工学専攻・松野文俊研究室

世界大会で優勝に輝いたレスキューロボットの後継機「FUHGA3」、本物のヘビさながらの動きではしごを昇る「龍神」などを間近で見学。「新作の『YAGURA』も持ってきました。縦横ともに約38cmの小さな機体ですが、アームは2.6mまで伸びます。高所や狭所の作業や点検に最適です。実際に見て、体験して、ロボット工学への関心を深めてほしいですね」(松野文俊教授)。



ロボットの操縦体験も！

地域の知に学ぶSDGs

●地球環境学堂・浅利美鈴研究室

北山杉を利用したお箸作りや着物の端材を使った箸袋作りを体験。生薬としても使われるクロモジの葉からつくるお茶など、京北地域の住民による特産品も販売。「地域の自然素材のことは、地元の方ほどよくご存じ。地域の知を知ってもらい、交流の機会になれば嬉しいです」(浅利美鈴准教授)。



手作りのフワフワなユキヒョウぬいぐるみ

●野生動物研究センター



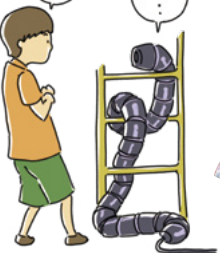
出迎えるのは、愛らしい目をしたユキヒョウのぬいぐるみ。「ユキヒョウの暮らすキルギスの方たちの手作りです。絶滅の危機に瀕しているユキヒョウと一緒に守ろうという想いを込めました」(木下こづえ助教)。ユキヒョウが暮らす環境にも目を向ける展示が多数。

ユキヒョウの住む山の近くに生息する花でつくった白いハチミツも。ユキヒョウのグッズは子どもたちに好評。

ロボットに話しかけてみよう！

●情報学研究科 河原達也研究室

ひっきりなしに子どもたちが訪れていたのは傾聴対話ロボット「きくロボ」との対話体験。適切なタイミングでの相づちや、会話内の重要な単語を捉えることができる。「人型ロボットならではの親しみやすさ、話し相手としての温もりを感じてもらえたら」(研究室の大学院生)。



発酵のパワーを体験

好気発酵と嫌気発酵という2つの発酵が作用する藍染を体験。(農学研究科応用生命科学専攻発酵生理及び醸造学研究室)



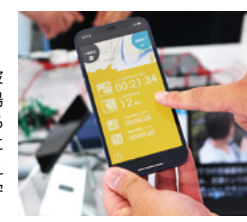
「京大紅牛」ぜひご賞味ください！

ブランド牛「京大紅牛(くれなるビーフ)」の予約販売を実施。「しっかりと脂がのり、あっさりとした肉質が特徴です」。(農学研究科附属牧場)



津波に備えてアプリで避難訓練！

実際のハザードマップを基に、津波発生から到達までの間に安全な場所まで逃げられるかどうかを試せるアプリ「逃げ外し」。「旅行で海辺に行くときに使うなど、津波への備えに役立てて」。(防災研究所・矢守克也研究室)



テントを訪ねて、スタンプを集めると……

ものづくり・ビジネスサークル「京大工房」

テントを訪ねて、スタンプを集めると、時計台とクノキをあしらった木製のスマホスタンドをプレゼント！先着50名限定の景品を企画・制作したのは、京大らしいユニークなグッズを制作する京大工房。使用場面を想定した角度の設計、立体感の演出など、細部のこだわりが光る。「2022年という時代を反映したくて、現代らしいデバイスであるスマートフォンのスタンドに決めました」。テントには、円周率やDNAの二重らせんなどのモチーフをあしらったグッズが並んだ。



あの看板商品が特別パッケージで登場



平和酒造株式会社「紀土-KID-」(限定ラベル)



株式会社菓匠三全「萩の月」本と菜をあしらった個包装の特別パッケージで販売



Dari K 株式会社「カカオニブチョコ」瓶の蓋に125周年の記念ロゴが入っている



株式会社井筒ハツ橋本舗「井筒ハツ橋」、「三笠」パッケージに時計台前の風景をあしらった特別版。この日の人気は三笠



月桂冠株式会社「THE SHOT」



株式会社 聖護院ハツ橋総本店「聖護院ハツ橋」

京都大学 アカデミックデイ2022

～創立125周年記念～

京都大学の研究者や市民の方々、文系・理系の枠組みを超えたコミュニケーションの場として始まった「アカデミックデイ」。2011年度から開催する名物企画が125周年イベントに登場。研究者たちの熱のこもった話しぶりに、身を乗り出して対話を楽しむ来場者の姿があちこちで見られました。



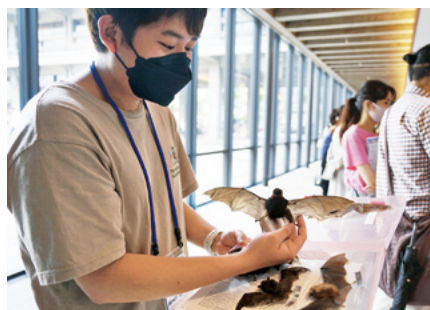
研究者と立ち話



研究者が自作のポスター前で、研究の魅力や意義を紹介。多様な分野から参加した研究者は、約100名。来場者の素朴な質問に、丁寧に熱く答えていました。

大学博物館の標本と生物多様性科学

出展代表者●総合博物館 本川雅治 教授
大学院生が見せてくれたのはコウモリ標本。間近で見つめると、羽根の薄さと羽根を支える指の細さに驚く。「この細い指で自由自在に羽根を動かします。獲物を捕らえるのもお手のものですよ。」「伝えたい！」の熱意にあふれる院生の語り引き込まれる来場者は多数。ブースにはネズミの標本も。



人生を穏やかに過ごすために必要なこと

出展代表者●iPS細胞研究所 鈴木美香 特定研究員

「いつかこの世を去るとき、「いい人生だった」と思えるだろうか」という哲学的な問いにふと足を止めると、ポスターには9つの質問の載った格子状のシートが。「『生きる基軸』を考えるマンダラチャートです。答えを見つける必要はありません。折に触れて、問い続けることが重要です」(医学研究科 佐藤恵子特任准教授)。



LGBTQや多様なアントレプレナー

出展代表者●経営管理大学院 柳 淳也 特定助教

「『アントレプレナー』という言葉を知っていますか? どんな人を想定しますか?」の問いに、シールや付箋で回答する来場者。アントレプレナー=起業家という単語から想定する人物の属性がいかにかステレオタイプなのか、多様なアントレプレナーを紹介し、伝えました。



素粒子で宇宙の謎を解く

出展代表者●理学研究科 博士後期課程1回生 中田嘉信さん

大学院生が企画したブースには、京都大学を目指す高校生の姿が絶えませんでした。VRゴーグルでスーパーカミオカンデの施設内部に入れるなど、研究を知る工夫が盛りだくさん。



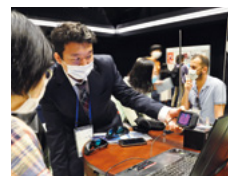
ちゃぶ台囲んで 膝詰め対話



靴を脱いで畳に上がり、研究者と小さなちゃぶ台を囲むと、あら不思議。緊張感が解けて、次々と質問が飛び出します。年齢も立場も気にせず、好奇心の赴くままに会話が弾みました。

薄く平らな材料と光、中性子でがん治療

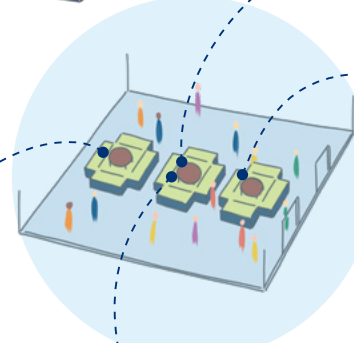
●人間・環境学研究科博士後期課程 3回生 Kang Heon Gyuさん
中性子を照射して、薬剤の浸透したがん細胞だけを壊す技術を紹介。



ナメクジ、お嫌いですか?

●理学研究科 宇高寛子 助教

ちゃぶ台の上に並ぶのは、容器に入った生きたナメクジや、ナメクジ標本。ナメクジのぬいぐるみを手話で話す宇高助教に、子どもたちから「カタツムリとは違う?」、「目は見えているの?」などの質問が次々。



なくしたしっぽは「ひと」を知る鍵?!

●白眉センター 東島沙弥佳 特定助教
骨や胚の模型を使って伝える、「しっぽ」の不思議。



文化財のかけらを通してみる 人と木の歴史

●生存圏研究所 田鶴寿弥子 助教

子どもたちの楽しそうな声につられて近づくと、なにやら神経衰弱をしているよう。カードに印刷されたのは木材の木部組織の顕微鏡画像。木材ごとに道管の形や大きさが異なることを遊びながら学ぶことができました。



お茶を片手に クロストーク

分野の異なる研究者が語り合う、3つのトークセッションを開催。分野の壁の高さに驚いたり、思わぬ共通点を見出したり、新たな問いが生まれたり。来場者からの質問も交えながら、セッションごとに異なるさまざまな話題で盛り上がりました。



ほかにこんなイベントが……

体育会学生主催イベント 京大体育会、まるごと魅せます

企画・運営を体育会所属の学生たちが担当し、京大体育会の「いま」をアピール。目玉のひとつは体育会所属の全55部による動画上映。汗のしたたる試合の様子、黙々と励む練習風景、仲間と過ごす時間……創意工夫を凝らした動画には、各部の色が存分に発揮されていました。体育会OBと現役学生による座談会には、森田鉄兵さん(京都ハンナリーズ 代表取締役社長(当時))、新美彰平さん(関西テレビ)が出演。部活と勉強の両立など、思い出話に花を咲かせました。イベントの最後には、応援団が久々となる観客の前での演舞を披露。熱のこもる圧巻のパフォーマンスで来場者を魅了しました。



創立125周年 記念音楽会

京都大学の卒業生であるソプラノ歌手の飯田みち代さん、チェリストの谷口賢記さんと京都市交響楽団の共演による記念音楽会を開催。指揮に広上淳一さん、ピアノにイリーナ・メジャーエワさんを迎え、卒業生の酒井千佳さんの司会のもと、1,000名を超える聴衆の前に迫力ある演奏を披露しました。ステージの合間には卒業生3名のトークセッションも繰り広げられました。



秋の記念行事

6月18日(土)、19日(日)に記念式典、記念フォーラムをはじめ創立125周年記念行事を実施しましたが、秋にも記念行事を実施します。

11月5日(土)、京都大学吉田キャンパスで開催されるホームカミングデイに併催する形で、豪華ゲストの登場する特別シンポジウムを開催します。また同日夜には、百周年時計台記念館隣の研究棟に、京都大学の歴史と未来を

3Dの輝きの中に浮かび上がらせるプロジェクションマッピングを上映する予定です。

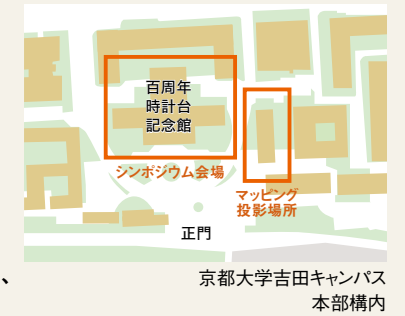
総合博物館と大学文書館、附属図書館では、京都大学が所蔵する貴重な資料などをもとに、それぞれ見ごたえのある展示を行います。各イベントの詳細は京都大学ホームページ創立125周年記念特設サイトに順次アップしていきます。(https://125th.kyoto-u.ac.jp/)

創立125周年記念プロジェクションマッピング

日時：2022年11月5日(土) 18時00分～18時10分
※18時10分以降、数回繰り返し上映を行うことを検討中です。

場所：京都大学吉田キャンパス本部構内
総合研究13号館前

創立125周年記念行事のフィナーレを飾る、記念プロジェクションマッピングを実施します。本学のこれまでの歴史を振り返りながらも、125周年をひとつの通過点として、これから先の京都大学の輝きに重点を置いたストーリーとなっています。



◆ そのほかの記念行事 ◆

京都大学総合博物館記念展示 「創造と越境の125年」



日時：2022年10月5日(水)～12月4日(日)
開館時間：9時30分～15時30分(入館は15時00分まで)
場所：京都大学総合博物館
料金：入館料 一般400円 大学生300円(11/5(土)は無料開放)

※次の方は入館無料(要証明書):障害者手帳(障害者手帳アプリを含む)をお持ちの方とその付き添いの方1名/70歳以上の方/京都府下の大学生/高等学校の生徒又は18歳未満の者/中学校、小学校、特別支援学校等に在籍する生徒・児童/京都大学の学生・教職員

理工・法・医・文の四分科大学創立時(1897～1906年)の貴重資料をはじめ、部局や分野、国境を超えて根源的な問いを探究してきた京都大学の教育研究環境に関する文献や資料、模型などを紹介します。学生、教員、職員の弛まぬ研鑽と対話が紡いできた『自由の学風』の起点を探ります。

京都大学大学文書館記念展示

「京大の周年記念行事——史料でたどるお祝いの歴史」

日時：2022年10月5日(水)～12月4日(日)
開館時間：9時～18時
場所：京都大学百周年時計台記念館1階 歴史展示室内企画展示室

京都大学におけるこれまでの周年記念行事を紹介します。創立間もない頃の十周年(1907年)や二十五周年(1922年)、敗戦直後の五十周年(1947年)、高度経済成長期の七十周年(1967年)、バブルとその崩壊期の百周年(1997年)など、各時代における京都大学のお祝いの歴史を大学文書館所蔵史料でたどります。



京都大学附属図書館記念展示

「京都大学創立125周年記念附属図書館所蔵貴重資料展示 絵物語の貴重資料展」

日時：2022年6月1日(水)～12月22日(木)
場所：デジタル展示 オンライン

附属図書館が所蔵する貴重資料の中から「絵物語」をテーマに6点を選定して、あらすじと見どころを紹介しています。Webの展示サイトから京都大学貴重資料デジタルアーカイブにアクセスし、高精細の画像や現代語訳のストーリーを見ることができます。
https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/mainlib/exhibition/exh2022



事前
申込制



京大力、新輝点。
125th
ANNIVERSARY
KYOTO UNIVERSITY

11月5日(土)
京都大学創立125周年記念行事
秋の特別シンポジウム開催

創立125周年記念 特別シンポジウム

日時：2022年11月5日(土)
13時30分～16時00分
場所：京都大学百周年時計台記念館1階
百周年記念ホール

京都大学CFプロジェクト等に多大なご支援を賜った建築家の安藤忠雄氏、京都大学法学部卒業生で小説家の平野啓一郎氏にご講演いただきます。また、講演に引き続き、「社会が求める人材像について」をテーマにパネルディスカッションを行います。

講演者2名に加えて、京都大学文学部卒業生で俳優の辰巳琢郎氏をパネリストとして迎えます。湊長博総長も登壇し、佐藤卓己教育学研究科教授がモデレーターを務めます。



安藤忠雄氏
建築家



平野啓一郎氏
作家(99年法学部卒業)



辰巳琢郎氏
俳優(84年文学部卒業)



湊長博
第27代
京都大学総長



佐藤卓己
京都大学大学院
教育学研究科教授

法心理学があぶり出す 私たちの「記憶」のあいまいさ

「自分とは何か」、「アイデンティティとは何か」を考える心理学Ⅱ。「自分」という存在は、自身の内面だけではなく、他者との関係や置かれた状況などの影響を多大に受けている。もう一つ重要なのが、今回の授業で扱う「記憶」。昨日の自分、今日の自分という記憶が、「私はこんな人間だ」というアイデンティティを構築していく。では、この「記憶」はどれほど確かなのだろうか。法学と心理学の知見を融合した法心理学の事例を通して、記憶のあいまいさに切り込んでみよう。



おおくら・とくし
1974年、東京都に生まれる。京都大学大学院人間・環境学研究所博士課程修了。九州国際大学准教授、京都大学大学院人間・環境学研究所准教授などを経て、2019年から現職。公認心理師、臨床心理士。

受講の前に……

この授業では「〈自分〉とは何か」「〈自分〉はどのようにできているのか」を考えています。前半は発達心理学、後半は社会心理学・法心理学の観点から、〈自分〉が他者との関係の中で形成・維持されていること、それゆえ他者との関係次第では容易に崩壊・刷新され得ることを見てきました。〈自分〉が他者によって規定されているという、「いや、他者がいなくても記憶があれば、私はこんな人間であると確信できる」と言う人がいるかもしれません。ですが、その記

憶そのものが他者との関係の中で作られているとしたらどうでしょうか。

今日取り上げるのは「記憶」です。記憶というと、体験した事実が脳内に刻まれたものと一般的には考えられています。ところが、心理学の研究成果が示すのは、人間の記憶は想像以上にあやふやで変わりやすいということ。例えば記憶を思いだす過程で受けた事後的な刺激を取り込み、元の記憶が改変されることがあるのです。この立場に立てば、私たちが事実だと思っていることは現実の出来事を正確に反映した

ものではなく、私たちの記憶の働き、あるいは記憶を呼び起こそうとするコミュニケーションなどによって作られるものだという見方が成り立ちうるのです。

今回はそれを刑事裁判に焦点を当てて考えます。裁判ではしばしば被害者や目撃者の供述が、事実認定の重要な証拠となります。しかし、供述が実際に起きたことを反映したものであるかどうかを、どう見分けたいのでしょうか。そのためには、心理学の知見が必要ではないかと言われ始めています。

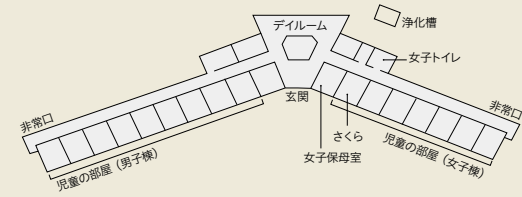
供述はどのような心理的メカニズムで形成されるのでしょうか。供述が体験に基づくのか、それとも勘違いや思い込み、あるいは虚偽なのかを見極めるのが供述心理学です。

見事に一致する 5人の児童の供述

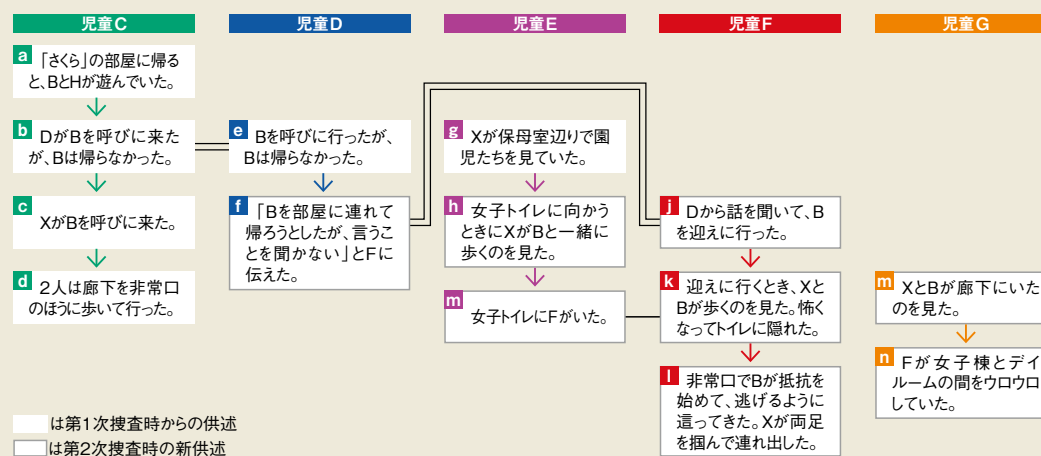
例として、1974年に兵庫県西宮市で起こった「甲山事件」を取り上げます。

概要 ● 知的障害児の養護施設「甲山学園」で児童A(12歳)が行方不明となった。2日後に児童B(12歳)も行方不明となり、搜索の結果、園内のトイレ浄化槽内で2人の遺体を発見。20日後に施設の保育士であった

1 寮の平面図



2 5人の供述の関係(一部抜粋)



X(22歳)が逮捕された。逮捕の10日後に自白するが、数日後に否認に転じ、処分保留のまま釈放となる。その後、検察による不起訴決定、3年後の「新供述」に基づく第2次逮捕などを経て、事件から25年後の1999年に無罪が確定。(寮の平面図①)



事件から3年後に現れた 決定的な新供述

供述について考える前に、いくつかヒントを提示します。まず、それぞれの供述は、どの時点で出てきたものなのでしょうか。Xさんの初回の逮捕までに出てきた供述はa~e。逮捕後にgが出ましたが、h以降の供述は釈放から約3年後です。核心的な内容を語る児童F君の供述に注目し、順に追っ

ていきましょう。

事件から約10日後、約1年後、そして、事件から約3年後に出てきた核心的な供述の抜粋を別紙にまとめています。③

こうした供述をもとに、検察は「論告」を作成します。論告をもって、これがF君の体験であり、目撃したことだと検察は主張しました。

問い

5人の児童の供述、あるいはFの供述は、事件当夜、XがBを連れ出したことを裏づけるものと言えるだろうか。そうでないとなれば、どこがおかしいだろうか。

供述の違和感を 考えてみよう

では、班でまとめたことを紹介してもらいましょう。

1班 ● F君の供述に、「非常口まで



3 児童Fの供述の変遷

事件から10日後

午後7時～8時ごろ、テレビを見ていた

Bは、部屋「さくら」で女の子たちと先生ごっこをしていた

午後8時ごろ、さくらに行くとBはいなかった

↓
 パジャマに着替えていると、先生が「Bがいなくなった」と、懐中電灯を持って押入れや便所などを探していた

↓
 その後は寝た

事件から1年後(一部抜粋)

▶ Fが語ったこと

- 「ぼくは見ていないが、1君は知っていると思う。1君から「Bは女子棟の廊下を歩いて出ていった」と聞いた」

事件から3年後(一部抜粋)

夕食後、Bは腕を持ってもらって寮に帰った

女子保育室前まで来たとき、女子棟の一番端辺りで、嫌がって座り込むBを女の子が立たせようとしていたのを見た

怖かったので、トイレに隠れて見ているとXだった

XはBの足を引っ張って、外に引きずり出してドアを閉めた

非常口まで行ったが怖かったので、外は見なかった

部屋に帰ってからY先生がBを捜しに来たが、怖かったので「知りません」と嘘をついた

4 論告抜粋

……ドアが閉まった後、すぐ非常口ドアのところに行き、ドアをさわったが開かず、横の窓から外を見たり、女子棟洗面所の上へ上がって横の窓から裏を見たが、暗くて見えなかった。……



印象的な出来事の記憶は強固



些末な事柄の記憶は、時間が経つと薄れていく

心理学の知見が示す新供述の問題点

まず、3年後に初めて出てきた供述なのに、あまりに詳しい。印象的な出来事であれば、3年後でも鮮明に思い出せたりします。ところが、核心部分に直接関係しない些末な事柄は、記憶が急速に失われます。当時をありありと語る内容よりもむしろ、自然な忘却を含む供述の真実性がより高いともいえます。夕食後にB君は1君に「腕を持ってもらって」寮に帰ったとありますが、事件と関係ない些末な行為の細部をよく覚えています。

さらに、1班が指摘したように、核心的な場面が変転します。印象的な出来事は時間が経っても同じように語れ

ますが、これは一定期間生き残った記憶は忘却や変動をしにくいという長期記憶の特性です。ところが、3年が経ち、長期記憶になったはずのF君の供述は、わずか数日の間に大きく変遷していました。

事後的に知った情報を元に再構成される〈記憶〉

つづいて、2班の指摘とも関係しますが、これが決定的でした。論告では、「2人がドアを出てすぐに非常口に行ったが、ドアが開かず、横の窓から外を見たり、女子棟洗面所の上に登って横の窓から裏を見た」とあります。

2人が出て行ったので、窓から姿を追いかけたのは理解できます。

ところがその後、自分の背丈では届かない窓によじ登り、浄化槽の方向を見ようとしている。浄化槽でこれから殺人が起こることを知らないはずの行動としては不自然です。つまり、F君は事後的に知った情報を元に、当時の自分の行為を作話したわけです。このように事後的な情報が、当時の記憶を脚色・歪曲する現象を「記憶の逆行的構成」といいます。

これはよくあることです。例えば、好人物と目されていた人が逮捕されたとき、後からその人の印象が変わることはあります。しかし、F君の場合、単なるニュアンスの変更ではなく、「行動」を伴っています。

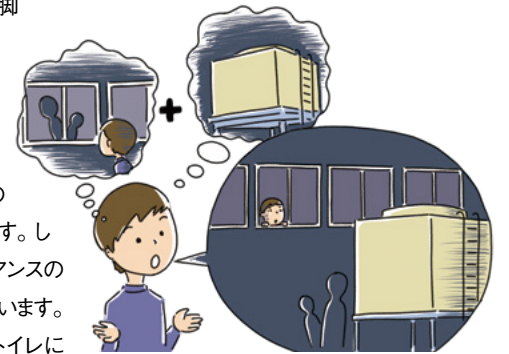
さらに「怖かったので女子トイレに入った」とありますが、夜8時という、就寝時間が近づき、いろいろな場所で遊んでいた児童たちが自室に戻る時間です。児童が保育士に連れられて歩く姿は見慣れた光景にもかかわらず、事件当夜はそれが怖くてトイレに隠れたというのです。これも、

「これからBが殺される」ということを知らないはずのF君が取り得ない行動です。ここにF君の供述の虚偽性を見取ることができるのです。

甲山事件では、発達心理学者がこれらの問題点を指摘し、幸いにしてXさんは無罪となりましたが、実際の裁判ではこうした危うい供述によって有罪が下されてしまうケースがないわけではありません。捜査機関と供述者のコミュニケーションにより「記憶」が作られ、裁判所も巻き込んで「事実」が作られてしまうわけです。そのプロセスを心理学的に明らかにし、冤罪を防ぐことは非常に重要です。心理学的な知見が社会の中で活きる例を感じていただけたかと思えます。では、今日はここまでです。

受講の後に……

授業では、数回にわたって甲山事件を取り上げる。取材した回の次週の授業では甲山事件の再現実験を紹介。〈自分〉を支えている「記憶」が他者との間で作られていく過程について、より詳細に考えていく。



使い、論告を作ったのですね。

1班 ● 違和感があったのは、事件から1年後は「(B君を)自分は見ておらず、他の児童から聞いた」と言っているのに、3年後にいきなり「自分が見た」という証言に変わったことです。

2班 ● これから起こる事件のことを知らないのに、何気ないことを細かく覚えているのは違和感を覚えます。しかも、月日が経過するにつれて詳細になっています。

そうです。F君がB君を見たときとされる際には、事件がまだ起きていないことは重要です。

心理学者の目で見ると、まず素朴に違和感を覚えるのは、5人の供述の補完関係があまりにも出来過ぎていることです。もちろん、事件直後に、それぞれが独立して、これらの供述をしたなら問題ありません。でも、逮捕前の児童たちの供述は、「Bがさくらの部屋で遊んでいた(a～e)」、「そこにXさんが

呼びに来た(c)」のみ。3年後の再捜査でF君の核心的な供述が出てくると、その供述を補完するようにはほかの児童たちの供述も出てきました。この流れはやはり心理学的に不自然。

ただし、これだけでは合理的な疑いには足りないでしょう。論告にある供述から、心理学的な問題をさらに見ていきましょう。



何年も経っているにもかかわらず、細部まで明瞭に覚えているのは不自然



行ったが怖くて外は見なかった」とありますが、検察の論告では、「(F君は)窓などのいろいろな場所から外を見ようとしたが暗くて見えなかった」と変わっています。④

全てを紹介していませんが、外は見えていないと言ったり、見たと言ったり、F君の供述は聞かれるたびに変遷しました。検察は、「見た」と言った供述を

牧野晶子 准教授

医生物学研究所

嚴重な防護服に身を包み、シャーレの蓋を開けて液をかける。光学顕微鏡で観察するのは目に見えない相手、ウイルスが感染した細胞だ。病原体であるウイルスと人類は長い歴史の中で格闘を重ねてきた。ところが、医学生物学研究所の清潔感ある廊下の片隅に飾られていたのは、なんとかわいらしい折り紙のウイルス。「ウイルスが悪者扱いばかりされているのは不満です」。牧野晶子准教授の楽しげな語り口から、ウイルスの新たな一面が見えてきた。

まきの・あきこ

1978年、愛知県に生まれる。東京大学農学部獣医学科卒業、同大学院医学系研究科博士課程修了。神戸大学大学院医学研究科研究員、京都大学ウイルス・再生医科学研究所助教などを経て2022年から現職。



ウイルスは未知数の宝箱。 尽きない魅力を折り紙で伝える

HIV、インフルエンザウイルス、そして新型コロナウイルス。ときに人を死に至らしめる恐ろしい存在であるが故に研究されてきたウイルスだが、近年は医療や環境問題への応用、さらには生命進化の謎を解明する可能性を秘めるなど、多様な側面が明らかになっている。牧野准教授は、「種類は何であれ、ウイルスの研究ができれば幸せ」と語るほどにウイルスに魅せられた一人だ。

「危険」に憧れ、 ウイルス研究の道に

今はもっばら、ウイルスの負の側面以外の姿を積極的に発信する立場だ

が、最初に惹かれたのはその典型的な「危なさ」だった。「高校生の頃、サルの輸入でエボラウイルスがアメリカに持ち込まれたエピソードを描いたノンフィクションの『ホット・ゾーン』を読んで、ウイルスの脅威に立ち向かう科学者の奮闘に心を掴まれました。『死と隣り合わせの仕事かっこいい!』とアクション映画を観てスパイに憧れるような感覚ですね。今は健康第一ですが(笑)」。『ホット・ゾーン』の主要人物が獣医病理学者だったので、大学時代は獣医学科を専攻し、ネコカリシウイルスという猫風邪の原因となるウイルスの研究を本格的にスタートしたのは学部4

年生の頃。「細胞を載せたプレートにウイルスを含んだ液をかけると、感染した細胞が徐々に死んで剥がれていきます。それを観察しながら、『目には見えないけれど、確かにここにウイルスがいるんだ!』と感動しました」。

ウイルスの感染に重要な役割を果たすのがレセプターという細胞表面の分子。ウイルスが結合できるレセプターがその細胞にあれば感染し、なければ感染しない。このシンプルさに惹かれ、ネコカリシウイルスのレセプターを特定すべく、実験を重ねた。「ようやく実験がうまくいったときの喜びは何ものにも代えがたいです。『これを知っているの

open!
ドアを
開けたら…

●ウイルスおりがみ

ウイルスおりがみ
発行：新学術領域ネオウイルス学
折り紙デザイン・イラスト：COCHAE
コンセプト・アートディレクション：三宅文子
冊子・ファイルデザイン：キタダデザイン
編集：SHIBUYA PUBLISHING &
BOOKSELLERS (SPBS) 福井恵子



「ウイルスおりがみ」の完成記念にワークショップを実施。「参加したおさんが父親に自慢げに説明する姿を見て、アウトリーチ活動の芽が出ているのを確信しました」



キャラクターをあしらったファイルには、解説書と18枚の折り紙、3枚の千代紙が収められている。ウイルスの形が宿主ごとに異なることを学べる「ウイルス・シール」も付属



折り紙は5種類。折り図を見ながら折り進めると現れたのは、ウイルスを模したキャラクターやファージ(細菌に感染するウイルス)やマダニたち!



新学術領域
ネオウイルス学とは?

ウイルスを病原微生物としてだけでなく、地球の生態系の構成要素として捉えて研究する学問領域。ウイルスが生物の生命活動や生態系に及ぼす影響やメカニズムの解明を目指す。京都大学のほか、東京大学、大阪大学、北海道大学など、日本各地の研究者が集う。牧野准教授は研究に加え、広報担当として参画。



牧野准教授をはじめ、専門家によるウイルスの解説も充実。折って楽しむだけでなく、分かりやすい解説でウイルスの正しい知識を身に付けることができる

は世界に私ひとりだ!』という気持ちを感じたこと、それを論文で発表して、さまざまな研究者から反応をもらったことは、その後研究者を続ける上での原体験になりました」。

研究はやめられない、とまらない

2012年に赴任した京都大学で出会ったのが、「圧倒的に変わり者」と評するボルナウイルス。ゲノムにRNAを持つRNAウイルスの一種で、核内で増殖して細胞を壊さずに増え続ける「持続感染」が特徴だ。所属する研究室を含め、日本では片手で収まる数

の研究室しか扱っていないマイナーなウイルスだ。「子孫ウイルスをほとんど産生せず、細胞の中でじーっとしている。研究室を主宰する朝長啓造教授が『引きこもりウイルス』と名付けるほど。ウマやヒツジに感染し脳炎を起こさず、他に似たウイルスもないのであまり知られていません」。

ところがボルナウイルスの引きこもり体質が遺伝子治療や再生医療に応用できることが分かってきた。また最近になって鳥や魚、ヘビから近縁の新種ウイルスが多数同定されており、それらがどんな特徴を持つのかまだ分かって

いないことが多い。「ボルナウイルスは『こうすればこうなる』という想定が通用しない。謎が多いからこそ、宝探しのような感覚で、つい、研究が『やめられない、とまらない』(笑)」。

核酸配列の解読技術の進歩で、空気や海水などの環境中にあるウイルスが次々に発見され、これまでに知られていたウイルスは氷山の一角に過ぎないことが分かってきた。「病気を起こさないから存在が認識されず、宿主や性質などが分かっていないウイルスは無数に存在します。そういったウイルスの中にはヒトの社会の役に立つウイルスがいるかもしれません。マイナーなウイ

ルスでも研究する意義は十分にある。これからどんな変わり種のウイルスに出会えるのかと思うとワクワクします」。

コロナ禍だからこそ生まれたウイルスおりがみ

ウイルス愛に溢れる牧野准教授。「恐ろしいウイルスの話はたくさんあるからこそ、それだけじゃないよと伝えたい」と、一般の人たちに向けたアウトリーチ活動にも力を注ぐ。そうして生まれた成果の一つが「ウイルスおりがみ」だ。

グラフィック折り紙を得意とするデザインユニット COCHAE と共に、2種類のウイルスを「ウイちゃん」と「ルースク

ん」としてキャラクター化。「何よりもかわいさを優先」との言葉通り、従来のウイルスのイメージとは異なるデザインに仕上げた。「ウイルスの擬人化は避けるべきという暗黙のルールがあると思っていましたが、コロナ禍の影響で多くの人がウイルスに関心を持つ今こそやってみるべきだと挑戦しました」。キャラクターはどちらも親しみやすい見た目だが、「ウイちゃん」はエンベロープウイルス、「ルースくん」はノンエンベロープウイルスをベースに、タンパク質や核酸のモチーフを使って顔のパーツを描くなど、学術的な含蓄の深さはまさに折り紙つき。

ウイルスが秘める不思議や魅力に心を動かされてきたからこそ、多くの人に届けたいという想いは強い。ウイルスは多種多様。家庭の本棚に恐竜・昆虫・植物図鑑と並んで「ウイルス図鑑」があってもいいのに、と笑う。「『恐竜ってかっこいい! 昆虫ってすごい!』と思うような気持ちで、ウイルスの奥深さに出会ってほしい。そうした若者が将来、ウイルス研究者となり研究の裾野が広がってくれたら」。

「ウイルスって面白い!」という牧野准教授の素朴なワクワクがさらに多くの人に伝播する日は遠くなさそうだ。

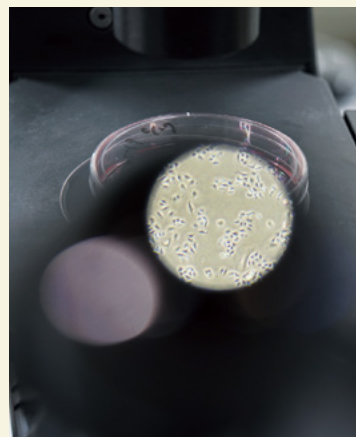
• こだわりの研究・実験室



2020年11月に引っ越したばかりの新しい研究フロアで研究に励む。殺風景にならないよう、レモンイエローの壁に合う観葉植物があちこちに置かれている



実験室の配置や備品の選択は牧野准教授が担当。寸法を測り、垂直にラインが揃うように設置されたデスクやシンクなど、使いやすさ・片付けやすさへのこだわりが垣間見られる



実験で使う細胞やウイルスは、種ごとに適切な温度で管理する。これは顕微鏡で覗いたボルナウイルス感染細胞



「空想ウイルス」を考えてみよう

「ネオウイルス学」の班会議でのアイズブレイクとして誕生した「空想ウイルス」。「失恋を癒すウイルス」や「老眼を治すウイルス」などの「いたらない」と思うウイルスを、「どんな特徴があるのか、どんな宿主に感染するか、どう活用できるか」までしっかりと空想し、ウイルスに対する想像力を養う。「柔軟な発想で、仮説を立てる力を養うことにもつながります。地球上に存在するウイルスはほとんどがまだ未解明。あなたが考えた空想ではないかもしれないのが面白いところです。読者の皆さんもぜひ、夢のウイルスを考えてみてください」。



心 地よい雨の音に耳を澄ませて
いると、男性の会話が聞こえて
くる。どうやら雨の日にしか見かけない
不思議な女性の話をしているようだ。
やがて軽やかな音楽が流れ、タイトルが
読み上げられる。『雨のせい』。KUBS
京都大学放送局が制作し、2021年
度のNHK全国大学放送コンテスト(N
コン)のラジオ番組部門で優勝を飾っ
たラジオドラマだ。

アナウンス部門と音声CM部門で
も準優勝を果たしたKUBS。過去に
も華々しい結果を残しているが、彼ら
は思いのほか自然体だった。「入賞は
あくまで結果。意識しすぎて活動が義務
になってしまうと楽しくないので」。局

現在の制作は音声作品がメイン。話
す速度や強弱、効果音で豊かな
情景を表現する



長の太田翼さんは飾らずにそう語る。
Nコン以外にも、イベントの司会やラジ
オ動画の制作など、活動は多岐にわた
る。機材や動画編集、脚本作りへの
関心から入部した局員も多く、それぞ
れが思い思いに活動する。「アナウン
スや制作などの部門は一応ありますが、
『好きなことをしていいよ』という自由さ
がKUBSの伝統です」と副局長の岡
田有真さんはほほ笑む。

自然体のまま活動してきたKUBSだ
が、2022年4月から自らの殻を破る新
しい挑戦に乗り出している。毎週月曜
日に放送するインターネットラジオ『今日
も京都Aモーニングを』だ。30分の
放送枠の中で局員同士の身近なトーク
を配信する。毎週放送というハードル
に尻込みする局員もいたが、率先して
牽引したのが番組MCを担当する
榊原陽介さん。「話を聞いてすぐに挑
戦すべきだと思いました。単発の自由
な制作も楽しいですが、継続的に責任
を持って番組を作る経験は魅力だな
と」。当然作業量は増えるが、「翌週



『今日も京都Aモーニングを』は毎週月曜日
の朝8時から放送中

はもっといい番組にしたいと頑張れる」
と岡田さん。BGMやジングルを使って
生放送の雰囲気演出したり、裏方
の局員をゲストに呼んだり工夫を重ねる。

進化を続けるKUBS。さらなる目標
に掲げるのは局員の個性を最大限に
活かした自由なもの創りだ。「KUBSは
自らを発信する部活。クリエイター気
質でどこかひと癖ある学生が集まっ
ています。そんな局員が興味のまま
に作品づくりに打ち込める環境をこれ
からも築きたい」。太田さんの言葉に
2人もうなずく。新たな舞台に踏みだ
した創作者集団から目が離せない。



十人十色の局員が挑む 「レギュラー番組」という新たな舞台

KUBS 京都大学放送局
局長 太田翼さん(理学部3回生、写真左)
副局長 岡田有真さん(文学部3回生、写真中央)
制作・機材部長 榊原陽介さん(経済学部2回生、写真右)

作品作りの鍵はコミュニケーション。コロナ禍もオンライン
のワークスペースに集い活動
している

大 空を優雅に舞う航空機・グライ
ダー。創部70年を数えるグライ
ダー部は、月に一度は岐阜県の大
野滑空場などへ合宿に赴く。操縦する
のは動力を搭載しないピュアグライ
ダー。機体につないだ長さ1キロメ
ートルのロープを動力式の巻き取り機で
一気に巻き上げると、凧揚げの要領で機
体は空へと舞い上がる。「うまく上昇
気流に乗るのが遠くまで飛ぶポイント
です」。そう教えてくれた森崇さんは高
校時代にはラジコングライダーに熱中
した生粋の「空好き」だ。

部員たちは、インストラクターが同乗
する練習用の機体で経験を重ねて、
単独でのフライトを目指して研鑽を積
む。動力のないグライダーにとって飛
行を支えるのは目には見えない風だけ。
もこもこと立ち昇る雲や空を飛ぶ鳥、
温まりやすく上昇気流が生まれる住宅
街やアスファルトの地面を目印に、空
という空間を三次元で捉える力が求め
られる。「単独飛行は自分の腕だけが
頼りという怖さがあります。それでも大



グライダーに適した季節は春。地上は暖かいが空の空気は冷たいため、上昇気流が生じやすい。夏は積乱雲に要注意など、季節の空を感じられるのも醍醐味だ

空をひとりで飛ぶ愉快さはなにもの
にも代えがたい経験です」。

練習に打ち込みながら森さんが目指
したのは、「操縦士技能証明書」とい
う国家資格。一定の単独飛行の経
験を条件に、口頭試験、学科試験、
実技試験をクリアすることで、一人前
のパイロットとして認められる。「ライ
センスがないと単独での飛行には距離
などの制限がある。いわば空を堪能す
るために欠かせないチケットです」。コ
ロナ禍で練習できない期間を挟みなが
ら、森さんはフライトを重ねた。「OB
でもあるインストラクターの方々には『飛
行回数に見合った経験を積んでいる

か』と繰り返し問われました。天候に左
右されない対応力がないとOBの方々
から受験のゴーサインが出ない。認め
てもらうまでが最大の難関でした」。

努力は実を結び、2022年5月にラ
イセンスを取得。森さんは次なる目標と
して忘れられない景色を挙げる。「同
乗するインストラクターの案内で飛ん
だ長野県の中央アルプスや南アルプ
スの景色はまさに神々しいの一言。次
はあの風景を独り占めしたい」。「グ
ライダーは浪漫」と語る森さんの探究心
は、新たな空へ向けてすでに風を切り
始めている。

雲と鳥、眼下に大地。 空を究めて駆ける浪漫の世界

体育会グライダー部
森崇さん(農学部4回生)



機体に搭乗する森さん。空での通信のため、無線操作の資格も取得している



グライダー部の所有する競技機。全国大会などでは京都大学を背負って飛ぶ

『紅萌』ウェブサイトも 公開中

下記のアドレス、またはQR
コードからアクセスできます。

[www.kyoto-u.ac.jp/
kurenai/](http://www.kyoto-u.ac.jp/kurenai/)



編集後記

2022年6月18日、京都大学は創立125周年を迎えました。当日はロームシアター京都で記念行事が行われ、多くのノーベル賞受賞者が登壇した記念フォーラムでは、湊総長や受賞者からの若者へのエールの言葉が印象的でした。今号では、当日の様子を伝えており、その熱気を感じてもらえればと思います。

編集時、新型コロナウイルスの感染が拡大していますが、今号では感染拡大に負けずに教育、研究、活動に励む教員や学生も紹介しています。節目の年を迎え、次の時代を輝かせる京大力を今後も紹介していきますのでご期待ください。

2022年9月
京都大学広報委員会
『紅萌』編集専門部会



京大力、新輝点。



2022年、京都大学は
創立125周年

<https://125th.kyoto-u.ac.jp/>

京都大学基金事務局より

創立125周年記念事業へのご寄付のお願い

2022年6月に京都大学は創立125周年を迎えました。

125周年という記念すべき年を新たな飛躍の契機とすべく、

「オール京大」体制を構築して記念事業の遂行に取り組んでいます。

記念事業を実施するにあたって募金活動を行っており、皆さまのご寄付をよろしくお願いいたします。

創立125周年記念事業

国際競争力強化—グローバルリーダーの育成

- 最優秀層の留学生を京都大学に入学させる事業 (Kyoto iUP)
- 学生を意欲的に海外へと送り出す事業
- 留学生を精力的に受け入れる事業

研究力強化—次代の“おもしろい”若手の育成

- 困窮学生に対する給付型奨学金の充実
- 若手研究者が研究に没頭できる環境を提供する事業
- 若手研究者へ研究費を支給する学内ファンド「くすのき・125」

社会連携推進—京都アカデミズムの創造発信

- 起業家精神あふれる人材の育成と輩出事業
- 京大発！ 未来を変える研究成果型ベンチャーの創出支援

2022年6月に続き、11月にも特別シンポジウムやプロジェクトマッピングなどの記念行事を開催します。125周年記念事業特設サイトで順次概要を紹介していきますので、ぜひご覧ください。
<https://125th.kyoto-u.ac.jp/>



創立125周年記念事業へのご寄付について

(1) ご寄付の方法

京都大学基金Webサイトにアクセス➡
「京都大学へ寄付する」ボタンをクリック➡
申込フォームに必要事項を入力

※寄付目的は「大学全体の支援のため(125周年記念事業のため)」を選択してください。

京都大学基金Webサイト

<https://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/>



(2) 税制優遇について

本学へのご寄付に対しては、税制上の優遇措置が受けられます。優遇措置を受ける場合は、本学発行の「寄付金領収証書」に基づき、所轄税務署に確定申告を行ってください。詳細は京都大学基金Webサイトをご確認ください。

お問い合わせ先

京都大学基金事務局

TEL : 075-753-2210

京都大学同窓会だより

第17回京都大学ホームカミングデイの開催

今年度のホームカミングデイは、実地とオンラインのハイブリッドで開催する予定です。実地開催は2022年11月5日(土)のみ、オンライン開催の公開期間は、11月5日(土)から11月30日(水)までです。実地開催では、卒業生によるジャズコンサート(Kazuki Yamanaka Special Quartet)のほか、学内施設見学、スタンプラリーを予定しています。オンラインでは、ジャズコンサートのオンデマンド配信に加え、多数の動画コンテンツ等、

多彩なコンテンツを検討しています。

詳細は、9月頃に京都大学同窓会ホームページにてご案内します。



ご家族・懐かしいご友人へご周知の上、ぜひご参加・ご視聴ください。
<http://hp.alumni.kyoto-u.ac.jp/>

新たに入会された同窓会

2022年3月「山口吉田山会」/2022年6月「カンボジア京都大学同窓会」、「京都大学このえ会」

京都大学同窓生向けサービスKUON

在学生と卒業生、教職員の方を対象に、同窓生向けサービス「KUON」を運用しています。登録者限定の優待特典をお届けするほか、京都大学ドメインのメールアドレスを利用できるサービスもあります。

[http://hp.alumni.kyoto-u.ac.jp/
kuon_alumni/](http://hp.alumni.kyoto-u.ac.jp/kuon_alumni/)



京都大学広報誌 **紅萌** 第42号
2022(令和4)年9月25日発行

編集 ● 京都大学広報委員会 『紅萌』編集専門部会
発行 ● 京都大学 総務部広報課
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL 075-753-2071
URL <https://www.kyoto-u.ac.jp/>
E-mail kurenai@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
制作協力 ● 京都通信社 デザイン ● 中曽根デザイン

『紅萌』は、次のURLで閲覧できます。

WEB版 <https://www.kyoto-u.ac.jp/kurenai/>

PDF版 <https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/public/issue/kurenai/>

©2022 京都大学 (本誌記事の無断転載・放送を禁じます)

アンケートに答えると
「総長カレー」を
抽選でプレゼント!



下記のQRコードを読み取り(もしくはURLを入力し)、専用フォームにアクセスしてください。ご協力いただいた方の中から、抽選で10名様に「総長カレー」をプレゼントします。応募の締め切りは2023年2月10日(金)です。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。



URL [https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/
public/issue/kurenai/enquete](https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/public/issue/kurenai/enquete)